

新しい運転適性検査体系

井上貴文 鈴木浩明 喜岡恵子 赤塚肇 重森雅嘉 樋田航

基礎実験に基づきエラー予測に優れたものとして選定された4検査について、JR各社の運転取扱従事員約1,500名を対象にしたモニター調査を実施した。併せて現行検査の成績データと取扱い誤りによる事故・輸送障害データを収集した。

事故・輸送障害との対応関係を分析した結果、現行検査では作業性検査、識別性検査(1群)、機敏性検査(誤答数)について、検査候補では多重選択反応検査、割込抑制検査について対応がみられた。

以上の結果から、新しい検査体系を提案した。現行の主要な検査である作業性検査は引き続き実施する。機敏性検査は、反応の速さ・正確さだけでなく、異常時等における総合的な対処能力をみる多重選択反応検査に入れかえる。識別性検査(1群)は引き続き実施するが、慣れや思い込み起因するエラーの発生しにくさを測る割込抑制検査と合わせて新たな検査を構成する。識別性検査(2群)と注意配分検査は、実施しない。

(鉄道総研報告, 2008年7月号)

